

環境経営レポート

令和2年度版

(第13版：令和2年4月～令和3年3月)



令和3年4月26日作成

株式会社 千葉環境ビジネス



■地球を守る 「護美」最前線

株式会社 千葉環境ビジネス 代表取締役 飯島 伸行

人間の暮らすところには必ず廃棄物が発生します。ゴミは人の営みの証しと言えるでしょう。温暖化や大気汚染など地球の環境に大きな変化と破壊が進行する中、廃棄物の問題は、現代社会のもっとも深刻な課題のひとつとなりました。かつて廃棄物処理は3Kと呼ばれた業界ですが、今や時代の最先端業種といっても過言ではありません。

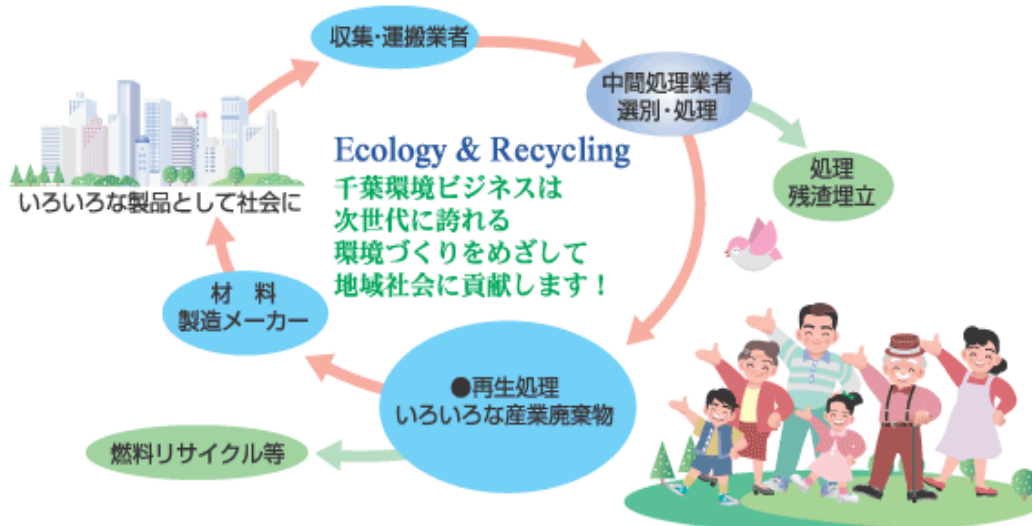
山林への不法投棄や廃油放置などのニュースが流れ、ともすれば「やっかいもの」と思われがちな産業廃棄物ですが、その多くは、分別・破砕・圧縮などの処理により、再利用可能な形に生まれ変わります。

千葉環境ビジネスは創業以来「産業廃棄物」を専門に扱い、適正な処理で地球レベルの環境を守るとともに、資源の節約やリサイクルに貢献してまいりました。

「廃棄物」という言葉には、不要のもの・価値のないものというニュアンスがあります。しかし実はゴミには、価値を創出する無限の可能性が秘められているのです。私どもの仕事は、その可能性を引き出すひとつの重要なステップだと考えています。

昔、ゴミ箱は「護美箱」とも書かれました。これは、ゴミの適正処理で地球の美しい環境を守る千葉環境ビジネスの姿勢には、まさにぴったりの言葉でしょう。

私たちの仕事は最先端の「護美」ですと、今こそ胸を張って申し上げたいと思います。これからも、エコアクション21環境経営システムを活用し、地球と社会に役立つ「護美」の仕事に邁進して行きます。



1. 環境経営方針

企業理念

千葉環境ビジネスは「護美」の心をモットーに、地球の美しい環境を守るとともに、資源の節約やリサイクルに貢献しています。

これからも一層、ゴミの価値を創出し、当社の関係する環境関連法等を遵守し、地球温暖化防止と循環型社会に貢献するために、以下の環境目標に取り組めます。

行動指針

1. 環境関連の法規制、及び当社が同意した業界等の行動規範を順守します。
2. 排出事業者とともに再資源化方法の検討や当社の選別作業の強化により、受入廃棄物のリサイクルを促進します。
3. 省エネ・省電力対策を推進し、CO₂ガスの排出量を抑制します。
4. 雨水の利用や節水により、水使用量の削減を計ります。
5. 自社からの廃棄物の排出を削減します。
6. グリーン購入を積極的に推進します。
7. 環境経営システムを活用し、優良産廃処理業者認定制度適合の拡大を目指します。
8. 環境方針は、全従業員に周知するとともに、公表します。

平成 19 年 8 月 21 日制定

令和 2 年 4 月 1 日改定

株式会社 千葉環境ビジネス

代表取締役 飯島 伸行

2. 組織の概要

・名 称	株式会社千葉環境ビジネス
・代 表 者	代表取締役 飯島 伸行
・設立年月日	平成 8 年 4 月 18 日
・資 本 金	1,000 万円
・所 在 地	本社：千葉市緑区あすみが丘東 1 丁目 28 番 15 号
千葉環境リサイクルプラント：	千葉市若葉区中野町 1691 番地 7、9、11 の一部
・環境管理責任者	リサイクルプラント所長 壁 明彦
・担当者連絡先（電話・メール）	壁 明彦 (TEL：043-205-2401、Email：info@chibakankyo.co.jp)
・ホームページの URL	http://www.chibakankyo.co.jp

3. 事業の規模

年度（4月～3月）	H30 年度	H31 年度(R1 年度)	R2 年度
廃棄物処理量（t）	21,525	23,424	20,673
売上高(百万円)	1,014	1,279	R3. 5. 31 決算
従業員	30	27	28
敷地面積（㎡）	6,517	6,517	6,517

4. 登録範囲

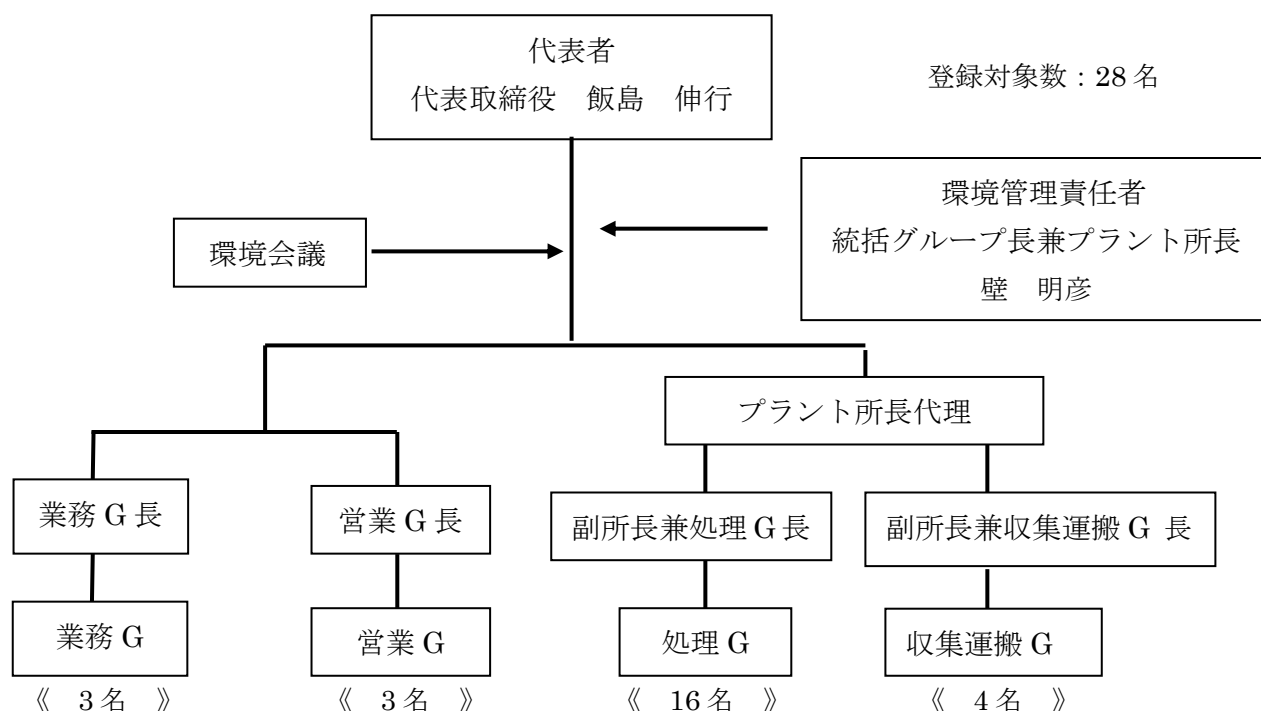
4.1 登録事業所

- ・本社：千葉市緑区あすみが丘東1丁目28番15号
- ・中間処理場：千葉環境リサイクルプラント 千葉市若葉区中野町1691番地7

4.2 事業内容

- ・産業廃棄物中間処理業
- ・産業廃棄物収集・運搬業
- ・特別管理産業廃棄物収集・運搬業

5. 組織図



<役割・責任>

代表者：環境方針の策定。代表者による EA21 活動の見直し。必要な経営資源の投入

環境管理責任者：環境経営システムの確立・実施・維持。社長見直し時に状況報告

環境管理推進者：事務局、EA21 活動及び結果の報告

6. 行政許認可一覧

都道府県名 政令市名	許可番号	許可日	許可期限	産業廃棄物の種類																	* 優良認定 *
				燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	ゴムくず	動植物性残渣	金属くず	ガラス・陶磁器	がれき類	ばいじん	鉱さい	廃石綿等（特別管理のみ）	
産業廃棄物処分業許可				取扱産業廃棄物の種類																	
1	千葉市 (中間処分)	第05520041256号 R2. 8. 12	R9. 8. 11						○	○	○	○	○		○	○	○				○
産業廃棄物収集運搬許可				取扱産業廃棄物の種類																	
2	千葉県	第01200041256号 H28. 9. 1	R5. 8. 31	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
3	東京都	第1300041256号 H27. 12. 8	R4. 12. 7	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○		○
4	神奈川県	第1403041256号 H29. 4. 11	R6. 3. 31	○	○				○	○	○	○			○	○	○	○			○
5	埼玉県	第01107041256号 H28. 10. 16	R5. 10. 15		○	○			○	○	○	○			○	○	○				○
6	茨城県	第00801041256号 H28. 10. 26	R5. 10. 10		○	○			○	○	○	○			○	○	○				○
7	群馬県	第01000041256号 H26. 10. 19	R8. 10. 18						○	○	○	○		○	○	○	○				○
8	栃木県	第00900041256号 H28. 9. 26	R5. 9. 25	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			○
9	山梨県	第01900041256号 H26. 11. 5	R8. 11. 4		○				○		○				○	○	○				○
10	静岡県	第02201041256号 H26. 10. 8	R8. 10. 7						○						○	○	○				○
11																					
12																					
特別管理産業廃棄物収集運搬許可				特別管理産業廃棄物の種類																	
1	千葉県	第01250041256号 H28. 9. 1	R5. 8. 31			○	○	○												○	○
2	東京都	第1357041256号 H28. 2. 28	R5. 2. 27			○	○	○												○	○
3	神奈川県	第01453041256号 H28. 8. 25	R5. 8. 24			○	○	○												○	○
再生事業者登録				廃棄物の種類																	
千葉県	第135号	H18. 11. 1								○					○						
解体工事業登録																					
千葉県	第0182号	H28. 12. 19	R3. 12. 18																		
古 物 商																					
千葉県公安委員会 第441400000976号			H18. 5. 19																		

7. 環境保全技術に関する資格保有状況

〔7-1〕. 環境保全技術に関する資格取得状況

① 収集・運搬に関する資格取得状況

	H30 年度	H31 年度	R1 年度
・安全運転管理者	1 名	1 名	1 名
・大型自動車第 1 種	8 名	8 名	8 名
・小型移動式クレーン	2 名	2 名	2 名
・玉 掛	3 名	3 名	3 名
・危険物乙種第 4 類	3 名	3 名	3 名

② 処分施設に関する資格取得状況

	H30 年度	H31 年度	R1 年度
・車両系建設機械（整地）	8 名	8 名	8 名
・フォークリフト技能	7 名	7 名	7 名
・危険物乙種第 4 類	2 名	2 名	2 名

〔7-2〕. 産業廃棄物の処理に係る講習会修了者

産業廃棄物および特別管理産業廃棄物処分業の許可申請に関する講習

①（特別管理産業廃棄物収集・運搬課程 新規）

財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター

平成 27 年 11 月 13 日 第 315127030 号 1 名

②（特別管理産業廃棄物処分課程 新規）

公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター

令和元年 11 月 21 日 第 219107041 号 1 名

8. 廃棄物処理施設・収集運搬等の状況

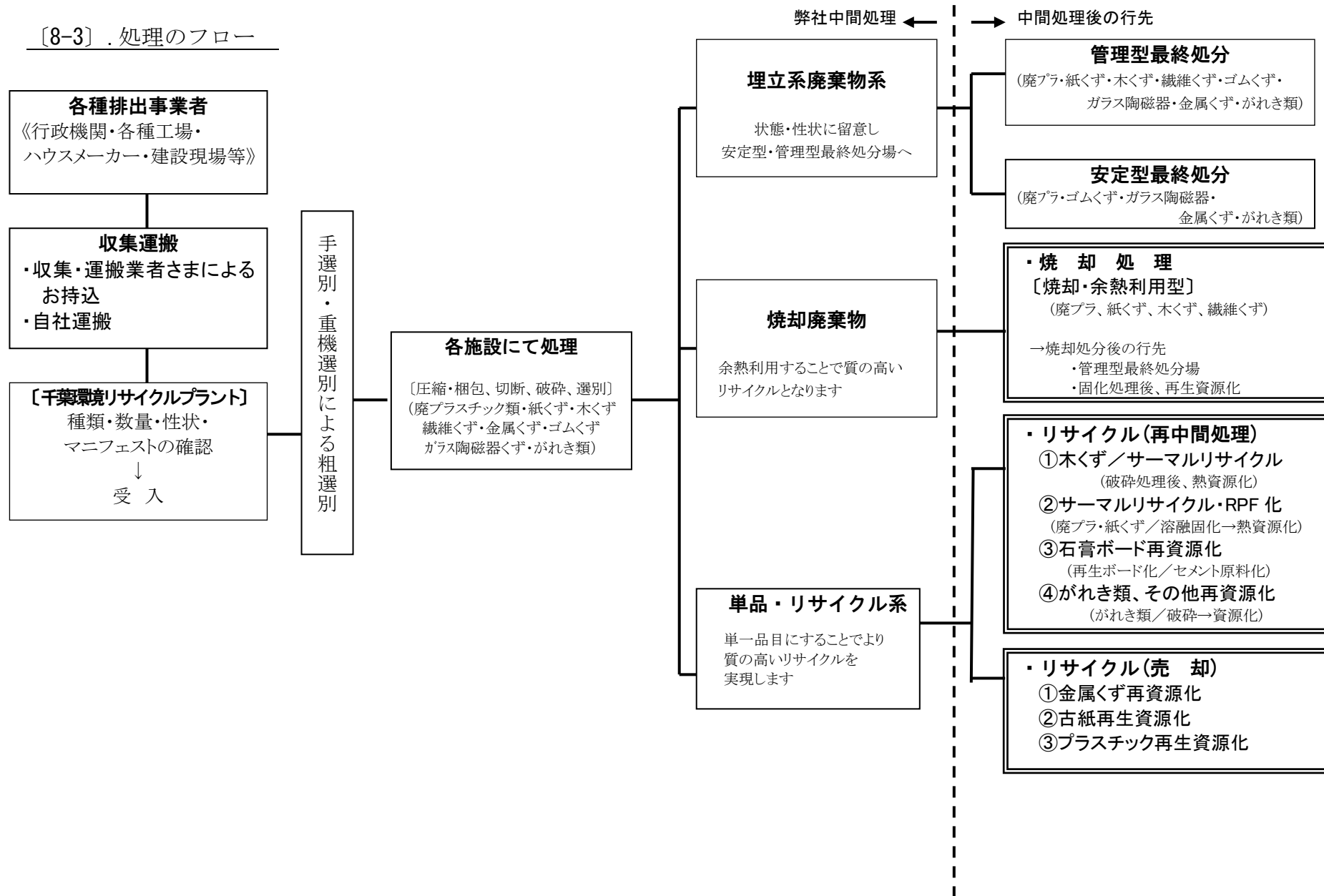
〔8-1〕. 処分施設

施設の種類(設置年月日)	取扱品目	処理能力	数量
圧縮・梱包施設 (H15. 7/4) (H18. 3/20 繊維, ゴム追加)	廃プラスチック類 紙くず 木くず 繊維くず ガラスコンクリ陶磁器 ゴムくず 金属くず	5. 34t/日 22. 24t/日 69. 92t/日 22. 48t/日 25. 20t/日 3. 58t/日 2. 96t/日	1
切断施設 (H18. 3/20) (H19. 3/12 紙, 金属, ゴム追加)	廃プラスチック類 木くず 繊維くず 紙くず 金属くず ゴムくず	3. 58t/日 4. 92t/日 3. 58t/日 3. 60t/日 3. 20t/日 4. 32t/日	1
破碎施設 (H19. 3/12) (H24. 2/22 破碎機の変更)	廃プラスチック類 木くず 繊維くず	3. 58t/日 4. 92t/日 3. 58t/日	1
選別施設①(ふるい機①) (H24. 2/22 ふるい機追加)	廃プラスチック類 紙くず 木くず 繊維くず 金属くず ガラスコンクリ陶磁器 がれき類	133. 32t/日	1
選別施設②(ふるい機②) (H19. 3/12 設置) (H20. 8. 20 ふるい機の変更)	廃プラスチック類 紙くず 木くず 繊維くず 金属くず ガラスコンクリ陶磁器 がれき類	134. 4t/日	1
施設所在地：千葉市若葉区中野町 1691-7、1691-9、1691-11 の一部 (H24. 2/22 施設面積の拡張)			

〔8-2〕. 保管施設

施設の種類	保管面積	保管容量	保管高さ	保管上限	数量
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	36.83 m ²	40.19 m ³	1.40m	40.19 m ³	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず、 ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	75.01 m ²	81.77 m ³	1.40m	81.77 m ³	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず、 ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	47.45 m ²	72.85 m ³	2.50m	72.85 m ³	3
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず、 ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	69.55 m ²	106.79 m ³	2.50m	106.79 m ³	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	58.83 m ²	89.14 m ³	2.42m	89.14 m ³	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	58.83 m ²	91.04 m ³	2.56m	91.04 m ³	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	72.84 m ²	105.79 m ³	2.20m	105.79 m ³	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	8.97 m ²	12.0 m ³	—	12.0 m ³	12
	施設所在地：千葉市若葉区中野町 1691-7、1691-9、1691-11 の一部 (H27.8/25 更 新 許 可) (H29.1/13 保管施設の変更) (R2.8/12 更新許可 優良認定)				

[8-3] . 処理のフロー



〔8-4〕 収集運搬許可関係

8-4-1. 産業廃棄物収集運搬登録車両一覧

車両の形式	最大積載量(kg)	保有台数(台)
脱着装置付コンテナ専用車	3,600	1
脱着装置付コンテナ専用車	3,550	1
脱着装置付コンテナ専用車	3,850	1
脱着装置付コンテナ専用車	8,200	1
脱着装置付コンテナ専用車	8,000	1
キャブオーバ (クレーン付)	2,850	1
キャブオーバ	2,000	1
ダンプ	2,000	1
軽・貨物	50	2

合計車両台数 10 台

〔8-5〕 産業廃棄物業実績と主要環境負荷実績

実 績	H30 年度	H31 年度	R2 年度
産廃収集運搬量(t)	5,178	5,595	5,059
上記のうち特別管理産業廃棄物の量(t)	0.8	0.8	0.4
産廃中間処理量(t)	21,525	23,424	20,673
産廃再資源化量(t)	17,038	17,010	17,488
電気使用量(kWh)	52,701	48,149	38,968
軽油使用量(ℓ)	153,893	169,616	169,616
ガソリン使用量(ℓ)	6,539	4,593	5,590
二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	446,858	480,887	478,427
水使用量(m ³)	48	60	43
自社廃棄物量(t)	394	379	413

〔8-6〕 廃棄物処理料金

・処分料金提示方法

産業廃棄物の処理料金につきましては、種類・性状・量・処理の難度等により変わるため、個別に算出・ご提示させていただきます。

9. 環境経営目標と実績

〔9-1〕 第5次中期環境経営目標 (中期：R2年度～R4年度)

項目			単 位	R1年実績 (2019)	第5次中期計画		
					R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)
温室 効果 ガス	電力使用量 (注)	リサイクルプラント	kWh／年	40,976	41,165	41,334	41,498
			kWh/処分量	1.75	1.74	1.73	1.72
		本社	kWh／年	7,173	7,173	7,173	7,173
		全社合計	kWh／年	48,149	61,506	65,785	68,122
	軽油使用量(重機) (リサイクルプラント)		ℓ／年	132,858	133,906	134,993	136,075
			ℓ /処分量	5.67	5.66	5.65	5.64
	軽油使用量 (収集運搬車)		ℓ／年	36,758	37,070	37,380	37,689
			ℓ/運搬量	6.57	6.56	6.55	6.54
	ガソリン(営業車、本社)		ℓ／年	4,593	4,593	4,593	4,593
	都市ガス(本社)		m³	108	108	108	108
	プロパンガス(リサイクルプラント)		Nm³	89	89	89	89
温室効果ガス排出量(*)			kg-CO₂/年	480,889	468,210	471,953	475,678
水資源使用量		本社	m³	60	60	60	60
		リサイクルプラント	チェックシート	16	16	16	16
一廃の自社排出量			kg/年	378	378	378	378
産廃の収集運搬量			t /年	5,595	5,651	5,707	5,763
産廃の中間処理量			t /年	23,424	23,658	23,892	24,127
産廃の再資源化量			t/年	17,010	17,180	17,350	17,520
中間処理後の廃棄物量			t /年	986	996	1,006	1,016
グリーン購入(チェックシート)			点	16	16	16	16

注)電力の二酸化炭素排出量算出は、R1年度は排出係数 0.505kg-CO₂/kWh(東電、H26年度実排出)を用いています。

R2～R4年度は東京電力エナジーパートナーのH30年度調整済排出係数 0.455kg-CO₂/kWh を使用しています。

【設定の基本的な考え方】

- 産廃収集運搬量・中間処理量・産廃の再資源化量はR1年度実績から毎年1%増加を目指す
又、中間処理後の廃棄物量もR1実績から毎年1%増加とする。
- 電力使用量は、リサイクルプラントではH1年度原単位実績を毎年0.01削減する。
本社はR1年度実績を維持する。
- 軽油使用量は、重機・運搬車両ともR1年度原単位を毎年0.01削減する。
営業車のガソリン使用量はR1年度実績維持とする。燃費もR1実績を維持する。
- 都市ガス、プロパンガス、水使用量はR1年度実績を維持する。
リサイクルプラントの水使用量はチェックシートで評価する。
- グリーン購入は事務用品購入で実施しチェックシートにて評価する。

〔9-2〕 中期環境経営計画

R2年度～R4年度の主な環境活動は次のとおりです。

区分	項 目	環境活動実施内容
二酸化炭素の削減	収集運搬車両及び重機の軽油使用量の削減	① エコドライブ教育
		② アイドリングストップ
		③ 燃費管理データ収集
		④ 定期点検の徹底
		⑤ 低燃費車の導入
	電気使用量の削減	① 節電告知パネル貼付
		② グリーン製品・機器への切替
		③ エアコン省エネ設定運転
		④ パソコン省エネモード継続
		⑤ クールビズ・ウォームビズの展開
廃棄物の削減	最終処分量の削減	① 手分別作業の改善
		② 分別作業の標準化
		③ 処分方法の見直し
	リサイクルの拡大	① 排出事業者への分別提案
		② PR紙、環境活動レポートの配付
		③ リサイクルネット整備・拡充
水排資源・水源	地下水使用量の削減	① 浸透マス整備
		② 雨水利用
		③ 洗車水、散水の節約
グリーン購入	省エネ基準適合製品の購入	省エネ型エアコンの購入
	再生材料からの製品を優先購入	コピー用再生トナーの使用
	再生紙、未利用繊維への転換	再生紙の優先購入

評価基準（50%未満× 70%未満△ 90%未満○ 90%以上◎）

〔9-3〕 R2年度環境経営活動実績

●環境経営目標とその実績及び達成率（活動期間：R2年4月～R3年3月での実績評価）

項目			単 位	中期基準 R1 年実績	R2 年度		
					目標値	実績値	達成率 (%)
温室 効果 ガス	電力使用量	リサイクルプラント	kWh／年	40,976	41,165	31,795	129
			kWh/処分量	1.75	1.74	1.54	113
		本社	kWh／年	7,173	7,173	7,173	100
		全社合計	kWh／年	48,149	61,506	38,968	158
	軽油使用量(重機) (リサイクルプラント)		ℓ／年	132,858	133,906	132,858	101
			ℓ /処分量	5.67	5.66	6.43	88
	軽油使用量 (収集運搬車)		ℓ／年	36,758	37,070	36,758	101
			ℓ／運搬量	6.57	6.56	7.27	90
	ガソリン(営業車、本社)		ℓ／年	4,593	4,593	5,590	82
	都市ガス(本社)		N m ³	108	108	187	58
	LPG ガス(リサイクルプラント)		m ³	89	89	40	225
	温室効果ガス排出量(注)		kg-CO ₂ /年	480,889	468,210	478,427	98
水資源使用量		本社	m ³	60	60	43	100
		リサイクルプラント	チェック シート点数	16	16	16	100
一廃の自社排出量			kg/年	378	378	413	92
産廃の収集運搬量			t /年	5,595	5,651	5,059	90
産廃の中間処理量			t /年	23,424	23,658	20,673	87
産廃の再資源化量			t/年	17,010	17,180	17,488	99
中間処理後の廃棄物量			t /年	986	996	986	101
グリーン購入(チェックシート)			チェック シート点数	16	16	16	100

注) 電力の二酸化炭素排出量算出は、R1 年度は排出係数 0.505kg-CO₂/kWh(東電、H26 年度実排出)を用いています。

R2～R4 年度は東京電力エナジーパートナーの H30 年度調整済排出係数 0.455kg-CO₂/kWh を使用しています。

● R2年度の主な環境経営計画の実施結果

区分	項目	環境活動実施内容	評価
二酸化炭素の削減	収集運搬車両及び重機の軽油使用量の削減	② エコドライブ教育	◎
		② アイドリングストップ	○
		③ 燃費管理データ収集	◎
		④ 定期点検の徹底	○
		⑤ 低燃費車の導入	◎
	電気使用量の削減	① 節電告知ラベル貼付	○
		② グリーン製品・機器への切替	○
		③ エアコン省エネ設定運転	○
		④ パソコン省エネモード継続	○
		⑤ クールビズ・ウォームビズの展開	△
廃棄物の削減	最終処分量の削減	① 手分別作業の改善	◎
		② 分別作業の標準化	◎
		③ 処分方法の見直し	○
	リサイクルの拡大	① 排出事業者への分別提案	○
		② PR紙、環境活動レポートの配付	○
		③ リサイクルネット整備・拡充	◎
水排資水源・	地下水使用量の削減	① 浸透マスの整備	○
		② 雨水利用	◎
		③ 洗車水、散水の節約	○
グリーン購入	省エネ基準適合製品の購入	省エネ型エアコンの購入	○
	再生材料からの製品を優先購入	コピー用再生トナーの使用	○
	再生紙、未利用繊維への転換	再生紙の優先購入	○

評価基準（×:50%未満、△:70%未満、○:90%未満、◎:90%以上

R2年度の環境活動結果は上記のとおりでした。

R3年度は△や○の項目が○や◎になるように全員で取り組みます。

[9-4] R2 年度活動結果の評価・考察

1. R2 年度の環境活動概況

リサイクルプラントの中間処理量は目標比 87%、前年比では 88%と減少した。
しかし、再資源化量は目標比 99%と若干の未達成、前年比で 103%と増加した。
収集運搬量は目標比 90%、前年比では 90%と減少した。

2. CO₂ ガスの排出抑制活動

(1) 電気の使用量

- ①リサイクルプラントは目標比 129%、前年比 71%と大幅改善となった。
処理量当たりの原単位は 1.74kWh/t の目標に対して 1.54kWh/t の実績であった。
受電施設のトラブルで篩機の 1 台が稼働出来なかった。
- ②本社は目標比 100%、前年比では 92%であった。節電を徹底し目標を達成した。

(2) 軽油使用量

- ①重機の軽油使用量は目標比 101%と達成、前年比では 100%であった。
原単位は目標 5.66ℓ/t に対して 6.43ℓ/t と悪化した。
電動篩機の代わりに重機での篩作業が増加したことが原因となった。
- ②収集運搬車両の軽油使用量は目標比 101%と大幅達成、前年比で 102%と微増した。
原単位も 6.56ℓ/t の目標に対して 7.27ℓ/t と悪化した。

(3) ガソリン使用量

営業車のガソリン使用量は目標比 82%、前年比では 122%と大幅に増加した。
県外への営業活動が増加したことが原因となった。

3. 産業廃棄物の収集運搬、中間処理、再資源化等

- (1)産廃収集運搬量は前年比で 90%と減少した。特に木くず、ガラス・陶磁器くずが減少した。
中間処理量は前年比で 88%と減少した。特に廃プラ(混合物)、紙くず、木くずが減少した。
- (2)再資源化量は前年比で 100%と同一であった。特に木くず、金属、がれきが増加した。
- (3)処理後の廃棄物発生比率は前年度は 103%と減少した。本年度は廃プラ、ガラ陶、金属くずの再資源化が増加した。

4. グリーン購入及び産廃業優良認定の維持、その他

- (1)優良産廃処理業者認定制度で優良認定された許可証は、収集運搬業では茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、静岡県です。特管収集運搬業では千葉県、東京都、神奈川県で、収集運搬業は全て優良を取得しました。
処分業の千葉市処分業は R2 年 8 月 12 日に優良認定を取得しました。
- (2)グリーン購入は計画通りの進捗です。化学物質の使用はありません。

5. 地域環境活動

リサイクルプラントでは定期的に敷地周辺の清掃を行っています。
今後も全員で地域の環境保全に尽くしていきます。



[9-5] 次年度の取組内容

(1) 環境経営目標

令和3年度の環境経営目標は令和2年度実績から中期計画の目標値を以下のように改定しました。

項目			単 位	R2 年度 (2020 年度) 実績	R3 年度 (2021 年度) 当初計画	R3 年度 (2021 年度) 改定目標
温室効果ガス	電力使用量 (注)	リサイクルプラント	kWh／年	31,795	41,334	38,000
			kWh/処分量	1.54	1.73	1.54
		本社	kWh／年	7,173	7,173	3,500
		全社合計	kWh／年	38,968	65,785	41,500
	軽油使用量(重機) (リサイクルプラント)		ℓ／年	132,858	134,993	132,858
			ℓ /処分量	6.43	5.65	6.42
	軽油使用量 (収集運搬車)		ℓ／年	36,758	37,380	33,082
			ℓ/運搬量	7.27	6.55	7.26
	ガソリン(営業車、本社)		ℓ／年	5,590	4,593	5590
	都市ガス(本社)		m ³	187	108	94
プロパンガス(リサイクルプラント)		N m ³	40	89	40	
温室効果ガス排出量(*)			kg-CO ₂ /年	478,427	471,953	468,056
水資源使用量		本社	m ³	43	60	22
		リサイクルプラント	チェックシート	16	16	16
一廃の自社排出量			kg/年	423	378	423
産廃の収集運搬量			t /年	5,059	5,707	4,553
産廃の中間処理量			t /年	20,673	23,892	24,807
産廃の再資源化量			t/年	17,488	17,350	20,961
中間処理後の廃棄物量			t /年	986	1,006	1,240
グリーン購入(チェックシート)			点	16	16	16

注) 電力の排出係数は東京電力エネルギーパートナー H30 年度調整済排出係数 0.455kg-CO₂/kWh を使用しています。

【設定の基本的な考え方】

R3 年度は社会的な活動がコロナ禍から脱却する見込みが見通せないので収集運搬量、中間処理量、再資源化量については以下のように見直す。

1. 産廃収集運搬量は R2 年度実績から 10%減少する。産廃中間処理量は R2 年度実績から 20%増加する。
産廃の再資源化量は R2 年度実績から 20%増加とする。
2. 電力使用量は、リサイクルプラントでは R1 年度原単位実績を維持し、使用量は 20%増加とする。
本社は事務機能をリサイクルプラントに移転するので電気使用量は R2 年度実績の 50%減とする。
3. 軽油使用量で重機用は R2 年度実績維持とする。運搬車両用は R2 年度実績から 10%削減する。
営業車のガソリン使用量は R2 年度実績維持とする。
4. 都市ガスと水使用量は本社事務機能を移転移転するので夫々 50%削減とする。
リサイクルプラントのプロパンガスは R2 年度実績維持とする。水使用量はチェックシートでの評価とする。
5. グリーン購入は事務用品購入で実施しチェックシートにて評価する。

(2) 環境経営計画

環境経営計画は 13 ページの内容を継続します。

10. 環境関連法規の順守状況&訴訟の有無

当社が遵守しなければならない主な環境関連法規等は次の通りです。

- ・廃棄物処理法
- ・消 防 法
- ・自動車NO_x・PM法
- ・労働安全衛生法
- ・建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律
- ・使用済自動車の再資源化等に関する法律
- ・特定家庭用機器再商品化法
- ・道路運送車両法
- ・道路交通法
- ・振動規制法、騒音規制法
- ・フロン排出抑制法

R3 年 4 月 19 日に遵法性評価を行った結果、環境関連法規への違反はありませんでした。
また、関係当局よりの指摘及び訴訟は、過去 3 年間ありませんでした。

11. 代表者による全体評価と見直し

R3 年 4 月 26 日に社長による全体評価と見直しを実施した。

報告項目	管理責任者からの報告内容	結果
環境経営システム構築	EA21 推進システムの変更はない。	○
環境目標	第 5 次中期計画の初年度であったがコロナ禍で取引先の事業活動が停滞し産業廃棄物の収集量が大幅に減少した。 その結果、電気使用量や軽油使用量は目標を達成したが、原単位は未達成となった。又、ガソリンは営業活動で未達成となった。CO2 排出量は目標を達成した。水使用量は達成したが自社一般廃棄物は未達成であった。	△
環境関連法規制	環境法令等登録表に基づき、R3 年 4 月 19 日に遵守状況を評価した。その結果、問題点は無かった。	○
外部から苦情・要望	環境に関わる苦情・要望等は無かった。また、行政からの指導も無かった。	○
緊急事態の想定及び訓練	令和2年12月10日に処理場で選別作業中にスプレー缶が発火する事故を想定した訓練を実施した。又、令和3年1月15日にコンテナ交換時の脱輪事故を想定した訓練を実施した。手順等の見直しは不要であった。	○
予防処置及び是正処置の実施状況	・産廃中間処理量のテーマが6月～11月までの6ヶ月間連続して月次目標未達成となった。又、ガソリン使用量削減のテーマが社内規程により是正処置となった。原因はコロナ禍で事業者から排出される産業廃棄物が大幅に減少した。又、廃棄物の確保の為に営業活動を進めたことでガソリン使用量が増加した。 令和3年度は中期計画の当初目標を改定して取り組む。	○
社長からの指示	EA21-2017 年度版への移行について準備を行うこと。	

変更の必要性の有無

①環境経営方針	EA21 2017 年度版対応で文言一部改定。
②環境経営目標	令和2年度の実績から第5次中期計画の令和3年度当初環境経営目標を見直した改定目標の達成に向けて取り組む。
③環境経営計画	第5次中期計画で策定した環境経営計画に基づき活動を推進する。
④環境経営システム	変更の必要はなし